

【福島市】

会 議 名	平成31年3月28日定例記者会見
日 時	平成31年3月28日（木） 午前10時～10時34分
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会</p> <p>それではただいまから定例記者会見を始めます。本日は市からの発表事項が4件となっております。それでは市長からご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>市からの発表事項</p> <p>（1）福島市新キャッチフレーズが決定しました！</p> <p>おはようございます。私から4件発表させていただきます。まず、福島市の新しいキャッチフレーズが決定したということです。作品は、「実・湧・満・彩（みわくまんさい） 福島市」ということで、4つの候補の中で最多票を獲得いたしました、このキャッチフレーズが採用になったということです。このキャッチフレーズに関しましては、市内外からいろいろアイデアというか、募集をいたしまして、多くの方に応募いただいたわけですが、この選考委員会で候補を4つに絞りまして、そして3月1日から今週の月曜日まで投票を行ってまいりました。投票総数が1675票ということです。</p> <p>その中でこの4つの候補のうち、「実・湧・満・彩 福島市」というものが646票ということで最多投票になりましたので、こちらを採用して福島市のPRに使ってまいりたいと思っております。</p> <p>この思いをこちらの2の（2）に書いてありますのでご覧いただきたいと思うのですが、作者は福島市在住の「笹崎 宣男さん」です。あと3にありますように、今後その新キャッチフレーズにあわせてロゴを市で作成して、ロゴとあわせてキャッチフレーズを作ることとしています。</p> <p>投票いただいた方、そして笹崎さんはじめキャッチフレーズを応募いただいた方に改めて感謝を申し上げます。</p> <p>（2）福島市のインスタ映えスポットが一目で分かる！ ～わくわくふくしまインスタMAP～</p> <p>続きまして2つ目になります。「福島市のインスタ映えスポットが一目でわかる～わくわくふくしまインスタMAP～」を作った</p>

【福島市】

というものです。

昨年春に、わくわくふくしまインスタ大賞というものを実施いたしました。こちらでインスタ映えスポットを集めたわけですが、それを掲載したわくわくふくしまインスタMAPというものをこのたび作成しました。これは1回限りではなく、今年もさらにインスタ映えスポットを集めて、そしてこのインスタMAPを充実させていこうという取り組みを進めていきたいと思っております。わくわくふくしまインスタMAPにつきましては、これは福島市観光コンベンション協会の公式ホームページ「こらんしょふくしま」の中に設けておりまして、こちらでこのバーコードから読み取っていただければインスタMAPが出てくるということになっております。

そして今後、2019も実施をいたします。応募方法はこちらにある通り、ハッシュタグ「#wakufuku」と「#春のわくわく2019」というものを重ねてつけていただきまして投稿いただければ応募したということになります。今回の場合は春だけではなくて、1年通じてやろうということにしておりまして、春夏秋冬それぞれで実施します。

これはハッシュタグをつけるときに、春のわくわく、夏のわくわく、秋のわくわく、冬のわくわくと、こういった形で区分をして投稿いただくことになりまして、それぞれ期日も我々として設定をしております。この期日の期間内に投稿いただければ、我々として応募作品として扱わせていただくということにしております。インスタグラムでのいいねの数の上位作品を選出して、ウェブ投票で決定するというようにしてしています。昨年は我々で選考委員会というものを設けました。それからそこに残るのも一定数、100以上のいいねが付いたものということにしていただけですが、残念ながら私もいっぱい投稿したわりには100以上ついたものがなくて、最終選考の対象に残れませんでしたけれど、やはりどうしても普段からフォロワーをいっぱい持っている人が有利になってしまうということがありまして、今回はいいねの数の上位というものをある程度ピックアップをしますが、数に制限は設けずにまず我々がある程度のところから絞り込んでいく。そしてウェブ投票で決定するというように、ある意味Webで投票するというように、またインスタの中で福島が話題になって、皆さんに関心を持っていただければと思っております。これに関しては賞が、MVP1名、準MVP1名、それから春のわくわく2019賞8名というかたちで表彰をさせていただきます。これは、MVPは四季ごとに行います。これが2つ目になります。

（３）海外にチャレンジする中学生や高校生を応援します！

～福島市海外チャレンジ応援事業スタート～

それから３つ目、今週火曜日に市議会の定例会が終わりまして、予算が成立したわけでありましたが、来年度の新規予算として認めていただいたものを今回こうしたかたちでPRといいますか、応募をスタートさせるというものです

内容は、海外にチャレンジする中学生や高校生を応援するという事で、福島市海外チャレンジ応援事業というものを新年度の新規事業として設けまして、早速募集をさせていただくというものです。これは海外での研修を通じて、子どもたちが幅広い視野や、豊かな国際感覚を身に着けて、福島から世界へ羽ばたく人材を育成するという事を目的に、この事業を設けました。海外研修費用の一部を助成いたしまして、自らの夢や目標に向かってチャレンジする中学生、高校生を応援するというものです。この事業は資料の9を見ていただきたいのですが、福島市ではこれまで中学2年生を対象に、中学生海外派遣事業というものの実施をしておりまして。大体各学校から1名ずつくらい出していただいて、そして団を組んで、それに市の職員も同行して、そしてみんな合同の行動をするというかたちでやっていたのですが、どちらかというと海外を経験していただくこうと色彩が強かったのですが、やはりもう海外の経験はかなりの方がやれる状況になってきましたし、それから子供たちが様々な夢を持っていますので、我々が1つのコースを作って集団で行くというよりは、若者が主体性、自主性を重んじて、自らの希望に沿った挑戦をするというものを応援していこうということで、今回こういった事業に振替をさせていただきました。

募集期間は4月1日から5月20日ということになります。応募対象者が中学生や高校生などということになっております。募集人員は大体20名ということになりますが、補助金額は保護者の所得によって3段階に分けて、こういった制度が所得の高い方優遇というかたちにならないように、所得が低い家庭の子どもたちでも、それなりに志を持って行きたいということであれば、行きやすいように応援をしていきたいと思っております。対象の研修といたしましては5にありますが、この(1)から(5)まで全てを満たす研修ということになります。ここで一つのポイントは(3)でございまして、いわゆるきちっとした事業者が主催をする研修ということにしております。やはり海外に子どもたちが行くということになりますと安全の確保というものが大事になりますので、その点ではそういった実績があって、体制をきちっと作ってくれている事業者を対象にしたいと思っております。なお、場合によっては保護者や関係の方が同行するというものは対象外というこ

【福島市】

	<p>とで、（５）に書いてありますが、そういった同伴のものは対象外とさせていただきます。対象経費は、６の（１）から（４）に記載の通りです。応募方法は、５月２０日までに必要書類を添えて持参いただくか、郵送いただく形です。対象者の決定は、６月中旬頃に決定して通知をしたいと考えております。というのも、行かれる方は夏休みを利用して行かれるケースも多いと思いますのでその点では、夏休みの研修の企画に間に合うように決定をしていきたいと考えております。３点目は以上です。</p> <p>（４）音楽堂の愛称「ふくしん夢の音楽堂」の使用が開始されます！～ネーミングライツ「ふくしん夢の音楽堂」除幕式～</p> <p>それから４点目ですが、既に発表させていただいておりますが、本市が誇る音楽の殿堂、音楽堂の名前が、４月１日から「ふくしん夢の音楽堂」というかたちになります。これはネーミングライツで募集をかけまして、この４月から５年間で福島信用金庫が「ふくしん夢の音楽堂」というかたちで、募集いただいてこれに決定をさせていただきました。４月１日は、８時１５分からこの愛称のサインプレートの除幕式を開催いたします。出席者は、樋口理事長、菊地福島市振興公社理事長、私ほかで出席をさせていただきます。サインプレート除幕以外には、記念演奏、写真撮影となっております。このネーミングライツ自体は、毎年５００万円を市にお支払いをいただくというかたちになっています。私からは以上です。</p> <p>質疑応答</p>
広報課長	<p>それではただいまの発表事項について質疑応答に移ります。ご質問ございましたら、挙手指名の後社名とお名前をおっしゃって頂き、ご発言をお願いいたします。ご質問のある方お願いいたします。</p>
民報	<p>市長に改めて伺いたいのですが、今回新しくキャッチフレーズが決定したということで、このキャッチフレーズをどのように活用して福島市の魅力発信に努めていきたいとお考えでしょうか。</p>
市長	<p>当然名刺とか、そういったものの活用も考えられますし、なんといっても本市の場合オリンピック・パラリンピックの一部競技が開催されるということで、そういったかたちで来られる方の目につくかたちでこれを使っていきたいと思っております。本市の魅力がいろいろな面で、まさに満載されたような名前ですので、それを使ってしっかりとアピールをしていきたいと思っております。</p>

【福島市】

時事	キャッチフレーズことで伺いたいのですが、ロゴマークは今後作成ということですが、いつ頃を予定しているかということと、今使っている「花も実もある福島市」というものは継続使用するんですって。
市長	そうですね。それは一切使わないというわけではなくて、それはそれで残っていますし。
時事	それをどのように今後使い分けていくかという部分について可能性を伺います。
市長	使い分けという点で言えば、基本的には新しいキャッチフレーズを中心に使っていきたいと思っております。わりとこれ実は、感じとしては似ているので、その点では我々として新しいものを使いながら反応を確かめて、使い方もそれに応じて検討していきたいと思っております。それからロゴマークの作成時期は、夏くらいまでには作っていきたいと思っております。できれば7月にオリンピックの1年前イベントのようなかたちになってくると思うので、そういったときにロゴも使えたらいいかと思っております。
読売新聞	海外にチャレンジする中高生を応援する発表についてですが、似たような制度を導入しているところもあると思いますが、県内で比較したらどういう位置づけになるのかを教えてくださいませんか。
市長	私は他との並びは考えていませんでしたが、事務方どうでしょうか。
生涯学習課	生涯学習課です。他の市町村の制度の部分で検討させていただいた中では、中学生に対してこういった制度で金額を出しているところは、県内では今調べた中では確認がとれませんで、大体中学生の、以前福島市で行ってありました中学生の海外派遣制度、そういったかたちで実施する自治体の方が多く見受けられていると、確認した中では感じておりました。
読売	そうしますと個人の活動、主体的な活動を応援するというのが珍しいということでしょうか。
市長	そうですね。というか私自身は、集団で行くということはもう少なくなってきたらと思うと思います。やはり今、国際交流も様々な交流というよりは、まさに多文化共生とか、そういうもの

【福島市】

	<p>にどんどん変わってきていて、単に海外に行って国際化の感じを味わいましょうというのは少し、行政としてもそういったものを続けてやるのかということは、私は疑問だと思います。現に従来の事業は、福島市の行革委員会のほうからも厳しい意見を言われておりましたので、その点では私はやはり役所が護送船団でやるのではなくて、できる限り若い人たちの主体性を見越しながらそれを応援する形の方が望ましいと思っております。その点では、私自身はあまり他の市がどうやっているかということは、あまり重視はしておりません。これまではどちらかというところかがやってみてどっちが最後にやるかみたいなことが多かったかもしれませんが。</p> <p>あと珍しいのは、高校生に市がやっているということは珍しいかもしれませんが。というのは、高校の教育ということになると、それは基本的に県の行政になるわけです。我々は教育委員会として高校生を教育するというツールは持っていないわけです。基本的に。責任もないわけですが。その点では、今回は高校生というよりは、本市による若い世代ととらえて、学校教育課とかではなくて、生涯学習課のほうで窓口をさせていただきたいと思っております。それから高校生だけではなくて、高校に準じては専門学校も対象にしております。その点ではいろいろな多様化が進んでいるわけです。高校に行かないで専門学校を重視してやるとかもやはり一つのチャレンジの仕方、自分の生きる道のやり方、選択肢だと思っているので、この年代の人に市として応援していこうという仕組みにさせていただいたというのが、少し変わった制度になっているかと思っております。</p>
広報課長	<p>発表事項についてのご質問の方は皆さまよろしいでしょうか。それでは発表事項以外の、その他皆様の方からご質問ありましたらお願いいたします。</p>
共同	<p>古関裕而さんの朝ドラの決定についてなのですが、その後豊橋市との連携について具体的に決まったり、協定を進めているものがありましたら教えてください。</p>
市長	<p>まだないです。我々これまで議会だったので。あとお気づきになっているかどうかはわかりませんが、とりあえず決まってすぐ、人が動いてきたということキャッチしまして、福島駅のバス停の案内表示を付けました。「古関裕而記念館は2番、3番バス停ですよ」というかたちでこれは設置させていただいております。それから、これまでは「朝ドラの実現を」という横断幕がありましたけれども、これを「朝ドラ決定」ということで変えさせてい</p>

【福島市】

	<p>ただいております。そういった点は市でもやったのですが、あとは議会答弁をしておりますように、まちづくりの計画ですね。名付けてというか、やはりこれも古関さんらしくということで「町づくりシンフォニー」と私が一応仮称で申し上げているのですが、こういったことをできるだけ早くまとめて、官民挙げて推進していきたいと考えております。</p>
時事	<p>児童相談所の設置について伺いたいのですが、先日政府が国会に対して児童虐待防止法などの改正案を提出したのですが、これについて自民党の一部委員からは、中核市に児相を義務化して設置するように求める声が上がっていたのですが、結果的に中核市市長会などが慎重姿勢を示して見送られることになったのですが、市長としてはどのように受け止められているかを伺います。</p>
市長	<p>私はこの児童相談所に関してはこれまでも他県で担当させていただいたことがあります。むしろ私はその時ある県で増やしました。香川県なのですが。そういう取り組みをさせていただきました。ただ児童相談所というのは非常に専門性が高く、従来は政令都市100万人といわないと難しいだろうと言われておりました。それが今50万人くらいでも、というような話になってきているのですが、なかなか本市のような30万人都市では難しいかということは、実は実感として持っております。この議論も前からありまして、それで中核市でも児童相談所を作れるようにはなっている、法改正されているわけですが、その時に課題になっていたのは専門的人材の確保とか、財源面とかでしっかり手当していただかないと、いくらやれといっても我々はやれません。そういうものが政府において付帯決議だったか、そういうものがきちっとついていたのですが、私どもから言わせると、そういうことに対する準備がほとんど進んでいません。その中で今回いきなり中核市で義務化ということは乱暴な議論ではないかと私は感じておりました。ただ児童虐待をなくすということは非常に重要な課題ですから、先日もメディアで総合支援拠点が進んでいないというような話があったのですが、あれは新年度予算で予算措置をいたしまして、しかも我々として確保できる専門職はしっかりと確保したうえで、虐待なども含めた対応にあたっていきたい。その点では新年度に体制を強化して、児童虐待に対処していきたいと思っております。なんといっても、我々今年度中核市に移行したばかりなので、まず保健所の移管を受けて、これをしっかりとやるということがある意味では今年の大きな目標でしたので、すぐにその選択式の児童相談所というものは厳しかったと思っております。それから児童相談所で、非常に難しくなってくる</p>

【福島市】

	<p>のは県との関係だと思えます。今県の児童相談所、県北の児童相談所がありますけれども、県北圏域大体50万ちょっとを所管していることになっています。その中で福島市が単独で持つと、今度は県の児童相談所は、20万人くらいを対象とかそれより小さい人口規模を対象にやらざるを得なくなってまいります。そうになると、専門性の確保というものがそういった面で非常に手薄な体制になる恐れがあります。ですから中核市をやるとなると、県の体制とどうするのか、こういった議論をしっかりとやらないと、単に現場に近いところであればいいという単純な理由では、私はないと思えます。そこはこれから中核市だけではなくて、都道府県も含めて、そしてもちろん一番制度設計をする国が、そういったものにきちんと目くばせをしながら考えていただきたいと思っております。</p>
民友	<p>郡山市の市長が休日の公務について言及されていましたが、木幡市長はどうお考えでしょうか。</p>
市長	<p>私は休日も公務が目一杯で、できれば減らしたいとは思っているのですが、原則欠席とかはするつもりはありません。</p> <p>というのも、市町村の行政を担当してみても分かるのですが、国と違って我々は現場の行政主体です。民間の行事に出席するなどによって民間の住民の方々とコミュニケーションを図るというのは、生きた行政を進めるうえで非常に重要な機会だと思っております。そういう行事を主催する方々も、その人たち自身は、平日は本業をやって土日はボランティアでやるといった面もあるので、そういうところも考えなくてはいけないと思えます。それから、働き方改革を進めるためには必ずしも原則欠席にしくなくても、むしろもっとやるべきことがあるんじゃないかと考えています。</p> <p>福島市では今、一人一改善運動、通称かえるチャレンジというのを今年から実施しています。これは仕事のやり方を変えて早く帰ろう、ということでその2つに掛けて「かえるチャレンジ」としました。そういう取り組みを徹底しようということが大事だと思います。私自身それを率先して実践していますし、とりわけ大事なものは、いろいろ簡素化してもトップだけは手厚いというのはこれまでいろんな組織には多いと思えます。そういうものを変えていくというのが大事だと思っております。</p> <p>現実には私は、土日や夜間に仕事にでますと、基本的には公務であれば秘書と車が付くことになります。しかし私自身は、土日で例えば近場であれば秘書と車は出さないようにしています。無理して出ずに休んで良いと。それと夜の公務に関しても、そこまで送ってもらえれば、あと待ってるだけでは時間がもったいないので</p>

【福島市】

広報課長	<p>帰しています。私も終われば夜の風景を眺めながら歩いて帰るなど実施をしています。あと今日も言いましたが、市長が来ると取り巻きが多くなるのが無駄だから減らすようにと。要は働き方改革をするのはもっともっと別の視点でやりようがあると思っています。</p> <p>民間の行事の出席自体は、民間の方にも「いつも来てもらえばいい」というには多少意識改革をしてもらわないといけないかと思いますが、仮に出席しても私が別の機会に休めば他の職員に向けて休んでいると範を示せるし、そういう多様な休み方をできるようにするのが本当の働き方改革じゃないかと。そういった面では固定観念を変えて、意識改革を進めることが働き方改革につながっていくと思っています。</p> <p>閉会</p> <p>それでは他にご質問がないようですので、以上を持ちまして定例記者会見を終了いたします。</p>
------	---